

Integra®



カスタムインストール分野で高評価を得る「Integra」ブランド AVセンターの枠を超えた専用モデルを2機種投入

DTX-9.9 DTX-8.9

Integraシリーズは1999年、北米のカスタムインストレーションブランドとして誕生しました。以来、Integraはプロフェッショナルなカスタムインストーラーの手により、数多くのホームエンターテイメント空間を構築する中心的な役割を果たし続けています。映画館のようなエンターテイメント空間をご家庭などにコーディネートするカスタムインストール分野では、AV機器には次世代を見据えた「ハイクオリティな音質や映像」をはじめ、照明、カーテン、空調などさまざまな生活機器とも連動する「快適なコントロール性」、別室に音楽や映像を配信する「マルチルームへの発展性」などトータルでハイレベルな性能が求められます。そしてこの度さらなるクオリティの向上を追求し、ピュアオーディオ品質の徹底はもちろん、マルチルームでのハイビジョン映像出力や、海外の高級映像機器が取り入れる映像の品質基準「ISF」の認定を取得したAVセンター「DTX-9.9」と「DTX-8.9」の2機種を、カスタムインストール分野の専用モデルとして9月上旬にリリースいたします。

IMAGINATIVE SIGHT & SOUND

ONKYO®

プレスお問合せ先 オンキヨー株式会社 カスタムインストール課

小林一佳（東京）TEL:03-3548-1574 / 小林保男（大阪）TEL:072-831-8005

写真画像はこちらから www.jp.onkyo.com/ の「New Products」より当製品をクリックください

掲載時のお客様お問合せ先 オンキヨーコールセンター TEL:050-3161-9555



DTX-9.9

AVセンター

¥367,500(税込) 9月上旬発売予定

- Dolby TrueHDやDTS-HD Master Audioなどロスレス音声フォーマットに完全対応
- 他社製TVやBlu-rayレコーダーと連動可能な「HDMI Ver.1.3a」を4入力/2出力装備
- HQビデオプロセッサを採用したアップスケーリング & アップコンバート機能を搭載
- きめ細かな画質調整をソースごとにプリセット、環境に応じて最適化する「ISFモード」搭載
- 別室へハイビジョン映像の配信を可能とする「Zone2 Video out」機能搭載
- マイクロソフト社が提唱する「Certified for Windows Vista」に準拠
- ジャンルやロケーションから選択して快適に再生可能なインターネットラジオ対応
- カスタムインストールの中心的機器として装備された豊富なコントロール機能
- 映画制作者の意図するサウンドを家庭で再現するための規格「THX Ultra2 Plus」に準拠
- 特許技術VLSC、聴感を重視したワイドレンジ技術WRATなど、培われたピュアオーディオ技術を隅々まで投入
- 付属の測定用マイクで自動的にスピーカーセットアップする機能に「Audyssey MultEQ XT」を採用

実用最大出力	各チャンネル280W(6Ω、1ch駆動時、JEITA)
周波数特性	5Hz~100kHz(+1dB/-3dB、Direct mode)
SN比	110dB(LINE、IHF-A)、80dB(PHONO、IHF-A)
HDMI端子	入力:4 出力:2
映像入出力端子	入力:コンポーネント×3、S×6、コンポジット×6 出力:コンポーネント×2、S×2、コンポジット×3
音声入出力端子	入力:デジタル×6(光×3、同軸×3)、アナログ×11(2ch×10、7.1ch×1) 出力:デジタル×1(光)、アナログ×5(2ch×2、Zone2×1、Zone3×1、7.1ch×1)
コントロール端子	RS232×1、IR(入力×2、出力×1)、12Vトリガー出力×3、Ether×1
最大外形寸法	幅435×高さ194×奥行454.5mm
質量	24.1kg
付属品	ラーニングマクロ対応リモコン

本製品は、お客様のご自宅にカスタマイズ仕様で提供するカスタムインストール専用製品となり、

Integra特約店を中心にお取り扱いしております。Integra特約店の詳細 >>> <http://www.jp.onkyo.com/integra/partners/>

Integra[®]



DTX-8.9

AVセンター

¥262,500(税込) 9月上旬発売予定

- Dolby TrueHDやDTS-HD Master Audioなどロスレス音声フォーマットに完全対応
- 他社製TVやBlu-rayレコーダーと連動可能な「HDMI Ver.1.3a」を4入力/2出力装備
- HQVビデオプロセッサを採用したアップスケーリング & アップコンバート機能を搭載
- きめ細かな画質調整をソースごとにプリセット、環境に応じて最適化する「ISFモード」搭載
- 別室へハイビジョン映像の配信を可能とする「Zone2 Video out」機能搭載
- カスタムインストールの中心的機器として装備された豊富なコントロール機能
- 映画制作者の意図するサウンドを家庭で再現するための規格「THX Ultra2 Plus」に準拠
- 特許技術VLSC、聴感を重視したワイドレンジ技術WRATなど、培われたピュアオーディオ技術を隅々まで投入
- 付属の測定用マイクで自動的にスピーカーセットアップする機能に「Audyssey MultEQ XT」を採用

実用最大出力	各チャンネル250W(6Ω、1ch駆動時、JEITA)
周波数特性	5Hz~100kHz(+1dB/-3dB、Direct mode)
SN比	110dB(LINE、IHF-A)、80dB(PHONO、IHF-A)
HDMI端子	入力:4 出力:2
映像入出力端子	入力:コンポーネント×3、S×6、コンポジット×6 出力:コンポーネント×2、S×2、コンポジット×3
音声入出力端子	入力:デジタル×6(光×3、同軸×3)、アナログ×11(2ch×10、7.1ch×1) 出力:デジタル×1(光)、アナログ×5(2ch×2、Zone2×1、Zone3×1、7.1ch×1)
コントロール端子	RS232×1、IR(入力×2、出力×1)、12Vトリガー出力×3、Ether×1
最大外形寸法	幅435×高さ194×奥行454.5mm
質量	23.0kg
付属品	ラーニングマクロ対応リモコン

本製品は、お客様のご自宅にカスタマイズ仕様で提供するカスタムインストール専用製品となり、

Integra特約店を中心にお取り扱いしております。Integra特約店の詳細 >>> <http://www.jp.onkyo.com/integra/partners/>

Integra®

主なテクノロジー

ロスレス圧縮音声フォーマットに完全対応

ロスレス圧縮音声フォーマットのDolby TrueHDやDTS-HD Master Audioに対応したデコーダーを搭載。また、Super Audio CDのDSDビットストリームにも対応しています。上記音声フォーマット以外にも、下記のデジタル音声フォーマットに対応したデコーダーを搭載しています。Dolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic II、Dolby Pro Logic IIx、Dolby Digital Plus、DTS、DTS-ES (Discrete/Matrix/Neo:6)、DTS 96/24、DTS-HD High Resolution Audio、AAC



他社製TVなどと連動するHDMI Ver.1.3a装備

HDMI(Ver.1.3a)端子を入力4系統、出力2系統装備し、各種デジタルプレーヤーやテレビ、プロジェクターとそれぞれケーブル1本で接続して、映像と音声の高品位伝送を実現します。また、出力2系統装備のHDMI端子はフラットパネルディスプレイ(FPD)とプロジェクターなどを繋ぎ変えることなく切り替えが可能です。なお、Blu-rayレコーダーから出力される1080/24PのフルHD信号にも対応しています。他社製TVやBlu-rayレコーダーの連動については、電源スタンバイ連動や自動入力切換え、TVのリモコンによる本機のボリューム調整とテレビスピーカー/シアタースピーカーの再生切換えが働きます。また東芝製レグザリンク対応テレビ「レグザ」との組み合わせでは、独自のコントロールコマンドによりHDMI入力拡張切換への操作も可能。これまでにない快適な操作環境を実現しています。



連動動作する他社対応機種

● パナソニック製ビエラリンク対応テレビ「ビエラ」、DVD/ブルーレイレコーダー「ディーガ」、東芝製レグザリンク対応テレビ「レグザ」、シャープ製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」(2008年4月以降の機種)との接続による連動動作

クラス最高レベルのビデオプロセッサ「HQV」採用

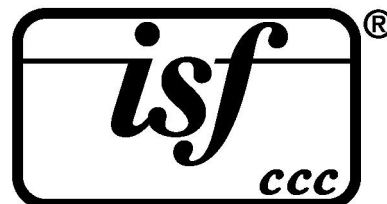
入力されたコンポジット、Sビデオ、コンポーネントといった映像信号を、より上位の映像信号(最上位はHDMI)に変換して出力できるアップコンバート機能と、480i、480p、720p、1080iで入力された信号も、より上位(最上位は1080p)の解像度にアップスケーリングして出力する機能を搭載しました。これらの処理には、クラス最高レベルの画像処理デバイス、シリコンオプティクス社の「HQV Reon-VX」を使用。1080p対応のHDMI端子を装備した映像機器であれば、たとえコンポジットやSビデオ、コンポーネントで入力しても1080pに変換してHDMI端子から出力し高画質な映像をお楽しみいただけます。また、入力された映像信号をスルーさせてそのまま出力することもできるなど、使い勝手にも配慮しました。



Integra®

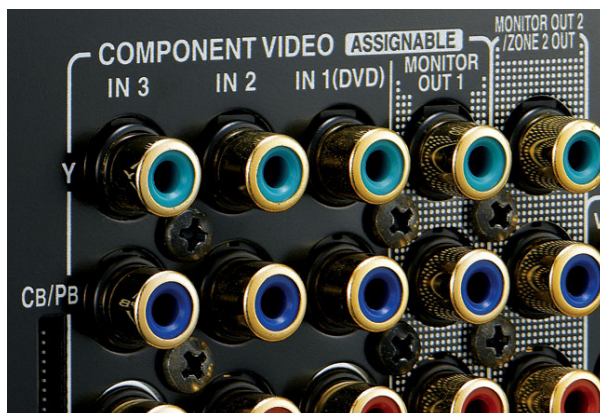
主なテクノロジー

ソースごとにきめ細かな画質調整、ISFモード搭載
映像画質の世界基準として著名な「ISF社(Imaging Science Foundation Inc.)」が認可した画質調整機能「ISFモード」を搭載。きめ細かな画質調整をソースごとにプリセットし、環境に応じた画質をお楽しみ頂けます。



Zone2 コンポーネントビデオ出力端子搭載

リビングや専用ルームでホームシアターを楽しみながら、別室でも好きな音楽や映像を楽しんで頂けるZone2 Video & Audio及びZone3 Audioに対応しています。Zone2 Video出力に対してはコンポーネント出力対応により、サブルーム(Zone Room)においてもハイビジョンによる高画質映像を配信することが可能になりました。またスピーカークラフト社製品をはじめとする、種々のIRシステムやスライドボリュームコントロールを使用することで、別室からでも快適な機器の制御やボリュームのコントロールが可能になります。



さまざまな機器と連動する豊富なコントロール端子

ホーム・オートメーションシステムの中心となるAMXやクレストロンなどの機器と接続可能な「RS232端子」、「Ether端子」を装備。AV機器との赤外線コントロールについては、スピーカークラフト社製をはじめとする赤外線コントロールユニットと連動する「IR端子」の装備を充実させました。また、対応機器間での電源連動を可能にする「12Vトリガー端子」やオンキヨー製品間での主要な連動操作に対応する「RI端子」も搭載。さまざまな機器との高い連動性を備え、簡単・快適な操作感を味わっていただくことができます。



主なテクノロジー

聴感を重視した基本仕様、WRAT

音楽や映画の音声信号は急激な変化を伴う複雑な波形をしています。こういった信号を忠実に再生するにはNFBをかける前のオープンループの特性を良くし、動特性の改善を図らねばなりません。本機は、このアンプの真の実力をあらかずオープンループの動作性能をきわめて安定なものとし、かつ超ワイド化を達成することで過渡変調歪や位相変調歪などの動的歪の改善を図りました。

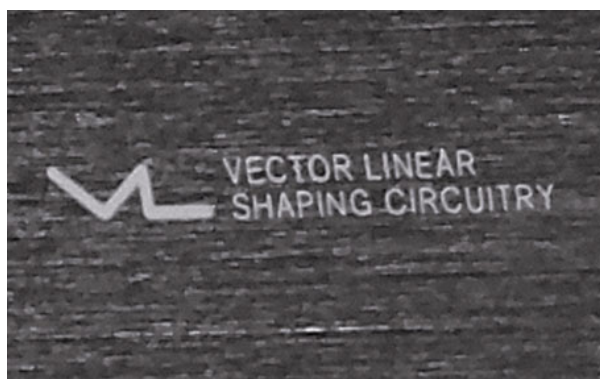
※WRAT:Wide Range Amplifier Technology

※NFB(Negative Feed Back=負帰還):アンプの出力の正負を反転させて入力に戻すことで歪やノイズを低減する技術です。



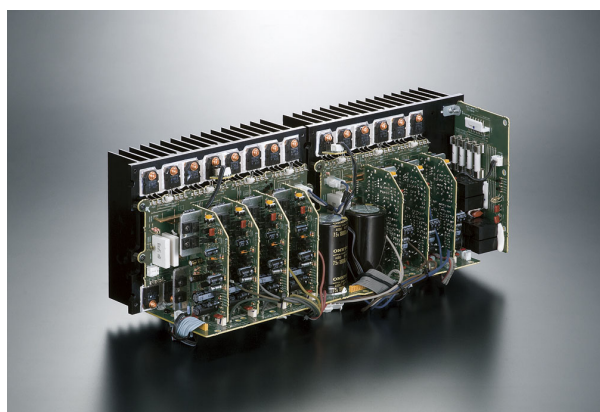
パルス性ノイズを完全除去、特許技術VLSC

DA変換後に残存するパルス性のデジタルノイズは、一般的なAVセンターではローパスフィルターで除去が図られますが、完全に除去することはできません。このノイズは可聴周波数よりも高い成分がほとんどですが、オンキヨーでは、このノイズは音質を損ねる有害なノイズと位置づけ、このパルス性ノイズの完全除去のため、比較器とベクトル発生器、積分器で構成された独自回路技術「VLSC(Vector Linear Shaping Circuitry)」を開発し、全チャンネルに搭載しました。ノイズのないクリーンなアナログ信号を新たに生成することで、ダイアログや音楽、効果音を生々しく再現することができるようになりました。



3段インバーテッドダーリントン回路を採用

アンプの最も重要な役割は、音声信号の通りにスピーカーを意のままに動かすことです。特にスピーカーの振動板は慣性で勝手に動こうとするので、この動きに打ち勝って、音声信号の急激な変化の通りに振動板の動きをコントロールしなければなりません。それにはそのエネルギーに打ち勝つ大きな電流を瞬時に流す能力が求められ、この能力をHICC(瞬時電流供給能力)と呼んでいます。このHICCを高めるには、電源のインピーダンスを下げたり、電力供給ラインを電流が流れやすくなるよう仕上げる必要があります。本機のグラウンドを含めた電力供給ラインには銅バス・プレートを使用していますが、これはHICCを向上させる一策です。また、出力段には一部のハイエンドパワーアンプにしか採用されない3段インバーテッドダーリントン回路を採用しました。この回路は出力インピーダンスをきわめて低く保つことができ、過渡応答特性に優れています。



パワーアンプブロック

主なテクノロジー

ホームシアターの世界基準「THX Ultra2 Plus」準拠映画の音作りの現場であるミキシングスタジオのサウンドを家庭で再現することを目的に策定された規格「ホームTHX」の最新規格「THX Ultra2 Plus」に準拠。小音量時にレベルの低い情報が失われない音量調整の技術が組み込まれており、ボリューム値に左右されることなくいつでもダイナミックな臨場感を楽しめます。



「Certified for Windows Vista」の認定を取得

サーバー（パソコン）とDTX-9.9をLAN接続してサーバーに保存されている音楽ソフトの再生が可能です（※）。インターネットラジオ機能については「vTuner」搭載によりジャンルやロケーションから検索して快適に再生が可能になりました。（対応機：DTX-9.9）

またクレストロン社のe-controlやAMX社のDuet機器に接続してさまざまな機器のコントロールも可能となります。（対応機：DTX-9.9/DTX-8.9）

※Windows XPを含むそれ以前のOSを使用したパソコンでは、ソフトウェアの「Windows Media Connect」をインストールしていただくことで連動が可能になります。



商標について ドルビー、Dolby、プロロジック、Pro Logic、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio は、Digital Theater Systems, Inc. の商標または登録商標です。レグザリンク、レグザは株式会社東芝の商標です。AQUOSファミリンクは、シャープ株式会社の登録商標です。THX およびUltra2 Plus は、THX 社の商標または登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Mediaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の名称については、一般に各開発メーカーの商標または登録商標です。

Integra®